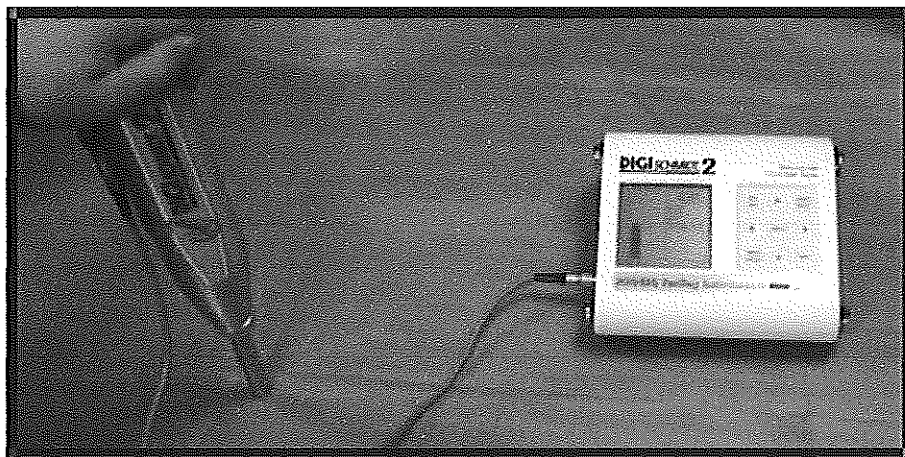


DIGISCHMID データ転送ソフト

DigiLink.exe

DigiExcel.xls

取扱説明書



富士物産株式会社

東京都中央区日本橋兜町21-7

兜町ユニ・スクエア

電話 (03) 5649-7121(代表)

Fax (03) 5649-7125

e-mail: Sales@fuji-bussan.co.jp

URL: <http://www.fuji-bussan.co.jp>

DIGISHIMDデータ転送ソフトの仕様

[ソフトの内容]

本ソフトは以下の2種類のソフトにて構成されています。

1. データ処理機能型転送ソフト DIGILINK. EXE (2～10頁)
2. エクセルマクロ、簡易型データ転送ソフト DIGIEXCEL. XLS (11～12頁)
(エクセルシートに直接データを転送)

[本ソフトの構成及び付属品]

1. システムディスク (デジシュミット Ver 6. 1) CDR 一枚
2. RS232C通信ケーブル 1. 5m 一本
3. 取扱説明書

[本ソフトが動作するハードウェア]

1. コンピューターWINDOWSが稼働する1ハードディスク、1CDROM方式以上のドライブ構成
2. OSは、WINDOWS 95, 98, me, XP
3. プリンターはWINDOWSのプリンタードライバーによる。
4. マウスが使用出来ます。
5. 通信ポートはC o m mポートを使用します。但し通信ポートにUSBシリアル変換ケーブル (UC-SGT) を使用した場合はUC-SGTドライバーのインストールが必要です。
本マニュアルの最終章UC-SGTドライバーのインストールを参照して下さい。

[プログラムのセットアップ]

本取扱説明書、13頁のインストール方法をみて下さい。

DIGILINKソフトの取扱説明書

[DIGILINKの概要]

本ソフト (DIGILINK) は、デジシュミットの測定データ受信ソフトで主に以下の三項目の内容を持っています。

1. コンピューターのRS232Cよりデジシュミットの測定データを受信し、そのデータを保存する。
2. データの評価グラフの表示及び評価グラフを基にした報告書のプリント。

注1：評価グラフはコピーして他のアプリケーション (エクセル、ワード等) に貼付可能。

注2：報告書の備考欄にはデジカメラ写真等のコピーが可能。

3. 他のアプリケーション (エクセル等) で利用可能なテキストファイル (. CSV) を作成する。

[操作]

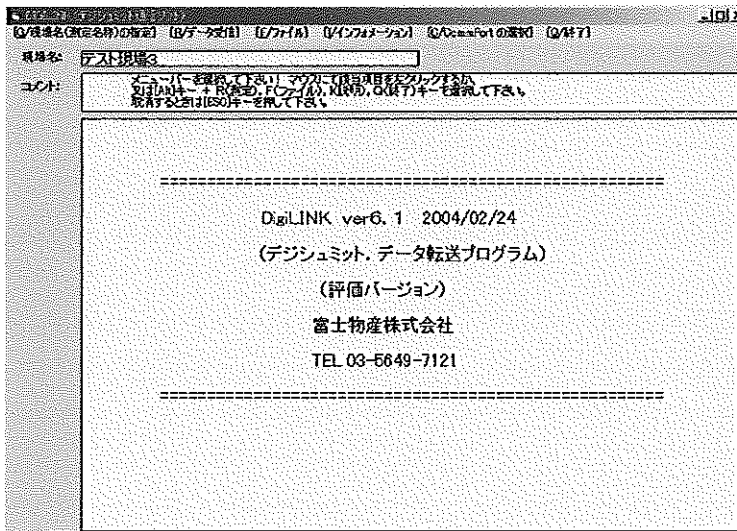
(スタート)

付属のRS232Cケーブルで、コンピューターとデジシュミット間を接続して下さい。

Windowsのスタートメニュー→プログラム→DIGILINKをダブルクリックにて実行。

又はエクスプローラーにてフォルダーC:\Program Files\Digilinkの中の

Digilink.exeダブルクリックにて実行して下さい。スタートの画面が表示されます。



14桁のシリアル番号 (CDROM又は登録はがき参照) を入力して下さい。
※初回のソフト起動時のみ入力

注：本プログラムのデータ受信ケーブルの既定の接続ポートはComm1になっていますが、

Comm1ポートが既に他の用途に使用されていて接続出来ない時は、メニューバーのCommportの選択をクリックして、接続可能で有効なCommport番号 (1～5) を入力することで、データの受信が可能となります。

Commportの選択番号は次回に変更されるまで、保持されます。

1. インフォメーション

メニューバーより [ALT] キー + [I] キー又はマウスクリックにてインフォメーション画面が表示されます。本ソフトの取扱が記入されています。[↑], [↓] キー等でページを進めることが出来ます。終了ボタンをマウスクリックするか、[TAB] キーを押して終了ボタンをフォーカス

(注: 反転表示させること) にして [RETURN] キーを押して下さい。

表示行の移動は(↑、↓、UP、DOWN)キー、スクロールバー等を使用して下さい。

終了

メニューバーの選択
[GRPH]キーと[R], [F], [I], [C], [Q]キーを押して下さい。
又はマウスにて選択(左クリック)して下さい。
サブメニューは↓、↑キーにて選択し、RETURNキーを押すか、又はマウスで選択(クリック)して下さい。取消は[ESC]キーを押して下さい。

1. 現場名の選択
最初に現場名を入力して下さい。全ての測定データは現場名ごとに区分されて保存されます。
メニューバーの現場名の指定 → 新規入力を指定して、測定現場名を入力して下さい。
既に登録済みの現場名を指定する時や、保存済みの測定データを読み出す時は、メニューバーの現場名の指定 → 現場名の選択にて現場名を指定して下さい。

2. データの受信
(測定データをデジシュミットより受け取ります。)
メニューバーよりデータ受信を選択し、サブメニューを表示します。
サブメニューにて測定モードにデータを受信する時は、毎測定を選択します。
測定名称を入力して測定を開始します。デジシュミットで測定終了。
ここに、自動的に測定データが転送されます。
サブメニューにて記憶データを一括受信する時は記憶値一括を選択します。
デジシュミットよりデータアウトポートを実行して下さい。
注: 毎測定ごとにデータを受信する時、設定回数内で転送する時はENDキーを押して下さい。

3. データの保存
2の形式で指定ディスクの(#DIGIDATA#表示現場名)ディレクトリーにセーブします。
DIGI : 本ソフトで読み出し可能なデジシュミットファイル(*SCH)
テキスト: ロータス1-2-3用テキストファイル(*CSV)
(マイクロソフトエクセルでも利用できます。)
1ロットの測定が終了時、または記憶データの転送が終了時に、データを保存したい時は、メニューバーから ファイル → セーブ → ドライブ指定 (注: *ファイル名は測定名称になります。)

4. データの読み出し
保存テキストファイル(*SCH)からデータを読み出します。
メニューバーから ファイル → オープン → ドライブ → ファイル選択

5. グラフのプリント

5. グラフのプリント
グラフのプリントには2(1画面印字(報告書形式)、2画面印字)の形式があります。
(1) 1画面印字型は報告書形式のプリントをします。用紙1枚につき1画面を印字します。
必要に応じて、備考欄の記入や写真を添付してプリント出来ます。
(2) 2画面印字は画面の表示通りにプリントします。グラフを連続して高速に印字します。

6. エクセル、ワード等にグラフ等の貼り付け
メニューバーから グラフのコピー (測定情報のコピー) → ファイルに保存 → ディレクトリー #DIGIDATA#表示現場名に表示グラフのコピー (測定情報のコピー) が保存されます。
またメニューバーから グラフのコピー → クリップボードコピー → クリップボードに表示グラフのコピーが貼り付けされます。

7. CommPortの選択
本ソフトでのデータ受信は通信ポートに通常Comm1を使用します。
Comm1が他の目的で使用、又はモデム、赤外線通信等の設定時はメニューのCommPortの選択をクリックして、データ受信ケーブルを接続する。
CommPort番号(1~6)を入力して下さい。
(注: 選択したCommPort番号より大きい変更は有効です。)

8. RS232C通信設定
通信方式: 調歩同期式 データ: アスキーコード
9600ボー、ノリパリティ、8ビットデータ、2ストップビット

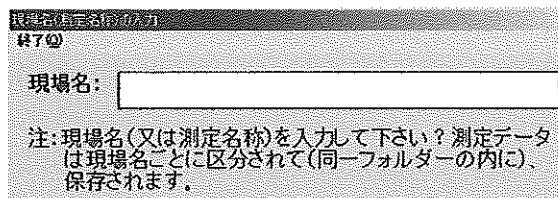
このインフォメーションを終了する時は、[TAB]キーを押して終了。
ボタンをフォーカスして[RETURN]キーを押して下さい。
あるいはマウスにて終了ボタンをクリックして下さい。
注: [TAB]キーを押す毎にフォーカスは移動します。

2. 現場名の指定

メニューバーより [ALT] キー + [G] キー又はマウスクリックにて [G/現場名の指定] を選択、サブメニュー (新規入力/現場名の選択) が表示されます。[↓、↑] キーで選択して下さい。

(1) 新規入力

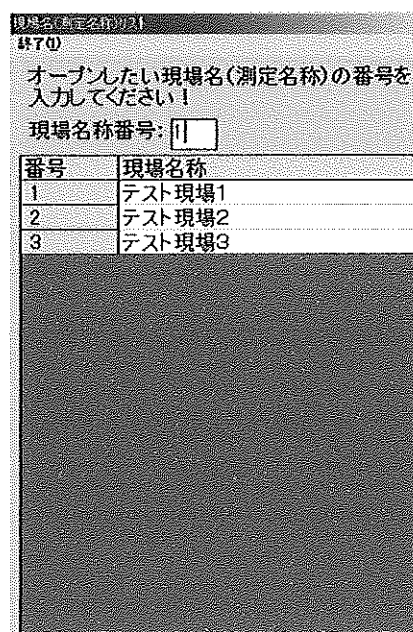
新規に登録する測定現場名を入力して下さい。



The screenshot shows a dialog box titled "現場名(測定名称)の新入力" (New Input of Site Name (Measurement Name)). It contains a text input field labeled "現場名:" (Site Name:). Below the input field is a note: "注:現場名(又は測定名称)を入力して下さい?測定データは現場名ごとに区分されて(同一フォルダーの内に)保存されます。" (Note: Please input the site name (or measurement name)? Measurement data is categorized by site name (within the same folder) and saved.)

(2) 現場名の指定

既に登録済みの現場名を指定します。



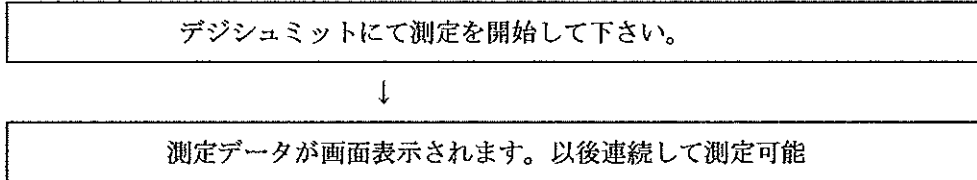
The screenshot shows a dialog box titled "現場名(測定名称)の指定" (Designation of Site Name (Measurement Name)). It contains the text: "オープンしたい現場名(測定名称)の番号を入力してください!" (Please input the number of the site name (measurement name) you want to open!). Below this is a text input field labeled "現場名称番号:" (Site Name Number:). At the bottom, there is a table with two columns: "番号" (Number) and "現場名称" (Site Name).

番号	現場名称
1	テスト現場1
2	テスト現場2
3	テスト現場3

3. データの受信

メニューバーより [ALT] キー+ [R] キー又はマウスクリックにて [R/データ受信] を選択、サブメニュー (毎測定/記憶値一括) が表示されます。[↓、↑] キーで、選択して下さい。

(1) 毎測定 (測定ごとにデータを受け取ります。)



デジタルシュミット測定結果表

連続プリント / 次の番号 / S 番号選択 / H 補正表の表示 / P プリント / G グラフのコピー / J 測定情報のコピー / E 終了(メインに戻る)

シュミットハンマーによる圧縮強度の推定

現場名

測定場所名

測定番号 測定日:YYYY/MM/DD

測定日 打設日

天候 気温

配合 - -

使用機器名

機番

備考

反発

打撃方向 測定回数

平均值(R) 圧縮強度推定式

補正(含水) 補正(材令)

補正後平均値 推定強度

6:材料学会
 7:建築学会
 8:東京都
 上記以外は本体の強度が優先

- * 1 表示データをプリントするときはメニューのプリントをクリックします。
プリントは時間がかかります、測定を終了してからまとめてプリントする事も出来ます。
- * 2 枠の内容を入力、又は変更出来ます。
データを印字、又は保存する前に必要な事項を記入して下さい。
- * 3 平均值、圧縮強度計算式、補正 (含水)、補正 (材令) を入力、又は変更すると推定強度が再計算されます。但し、圧縮強度計算式が 6, 7, 8 以外の場合は本体の強度が優先されます。
- * 4 メニューバーの [補正表の表示] をクリックして適切な補正値を確認する事が出来ます。

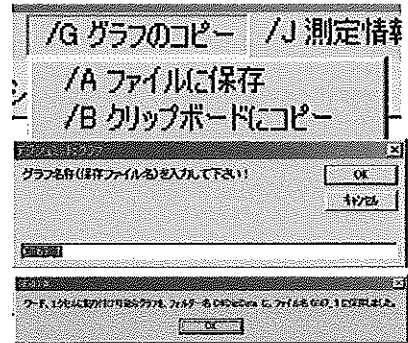
- * 5 エクセル、ワード等にグラフを貼り付ける。

メニューバーのグラフのコピーをクリックします。

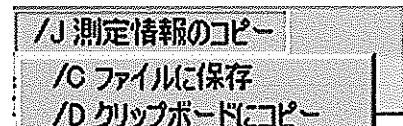
サブメニューの後で貼り付る場合はファイルに保存を選択します。

保存ファイル名を入力してOKをクリックするとフォルダー C : ¥ D i g i D a t a にファイル名***. BMPにて保存しましたとメッセージされます。

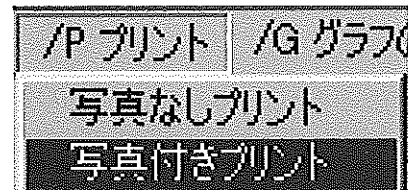
エクセルやワードにて図の挿入をクリックしてファイル選択でフォルダー C : ¥ D i g i D a t a 保存したファイル名を選択して図の挿入を行います（図の大きさ位置等の調整は各アプリケーションに従って行います）保存しないでその場でグラフの貼付を行う時はサブメニューのクリップボードにコピーを選択して並列に作業しているアプリケーションに貼り付けます。



- * 6 エクセル、ワード等に測定情報を貼付けるメニューバーの測定情報のコピーをクリック、以後評価グラフのコピーと同じ方法にてコピー貼付を行います。



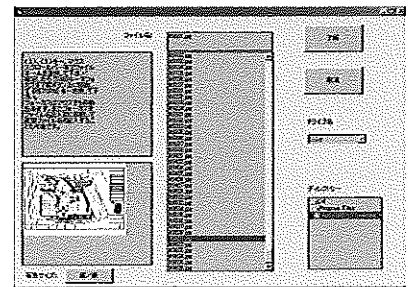
- * 7 報告書（プリント）の備考欄に写真（. j p g）を貼付る。メニューバーのプリントをクリックして写真付きプリントを選択して、画面の指示に従って該当するドライブ名を入力します。



右のファイルリスト画面にて添付する写真ファイル名(. j p g)を選択し、了解をクリックします。

報告書の備考欄右端に、選択した写真が貼付されます。

注1：写真ファイルはJ P E G形式(. j p g) 他の写真ファイルはJ P E Gファイルに変換後利用可能です。



注2：写真ファイルはサイズによって縦横の選択を行って下さい、初期は横です。

(2) 記憶データの受信

サブメニューより記憶値一括を選択します。

デジシュミットのメニューよりデータアウトプットを実行



メイン画面に戻って受信データを表示します。

OS:WIN (デジシュミット通信ソフト)

①/現場名(測定名称)の指定 [R/データ受信] [F/ファイル] [I/インフォメーション] [C/CommPort の選択] [Q/終了]

現場名: テスト現場1

コメント: 次ページ(↓)、(印字)、(グラフ)ボタンはTABキーにて選択してから [RETURN]キーを押すか、又はマウスにて選択(左クリック)して下さい。データの保存はメニューバーのF/(ファイル)を選択して下さい。

ナンバー	打撃方向	平均値	最大	最小	偏差	強度	年月日
2:	下↓	20.2	23	18	2.2	3.9 N/mm2	2000/12/4 3:40
		19 18 19 23	22				
3:	下↓	18.0	18	18	0.0	187 Kg/cm2	2000/12/8 3:5
		18 18 18 18	18 18 18 18	18 18 18			
4:	下↓	42.8	45	40	1.9	28.9 N/mm2	2000/12/11 0:59
		40 42 43 44	45				
5:	下↓	24.4	27	21	2.7	267 Kg/cm2	2000/12/11 1:3
		21 22 26 26	27				
6:	下↓	27.7	33	24	3.4	**	2000/12/11 2:4
		27 29 24 25	31 33 25				
6:	下↓	21.3	29	18	3.6	**	2000/12/11 3:30
		19 18 21 22	20 20 29				
7:	下↓	19.3	20	18	0.8	**	2000/12/11 3:32
		19 20 20 18	20 19 19				
8:	下↓	27.8	33	22	4.4	**	2000/12/11 3:40
		22 25 29 31	33				
9:	下↓	35.0	35	35	0.0	**	2000/12/11 3:41
		35					

次ページ

↓

データ印字

グラフ表示

** データの保存、印字、グラフ表示が可能です。 **

各ボタンはマウスクリックまたは [TAB] にてフォーカスを移動させて [RETURN] を押す。

(↓) ボタン: 表示されない次のデータを表示します。

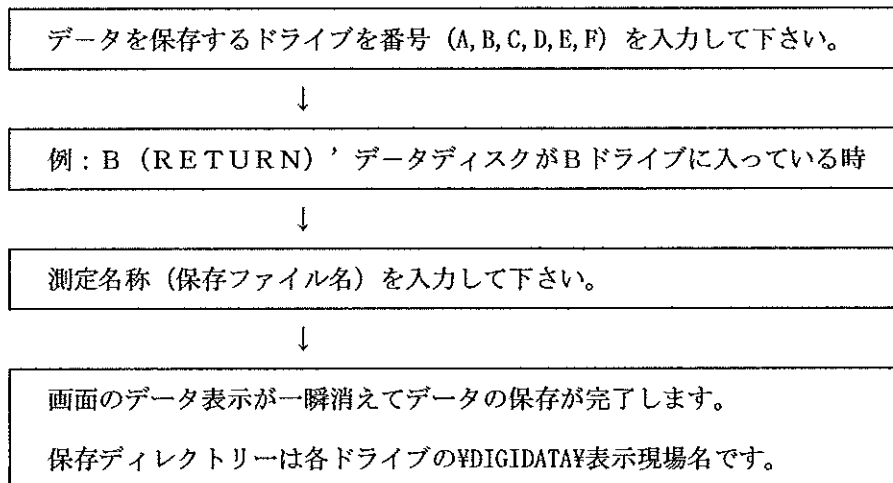
(印字) ボタン: 全データを印字します。(注: グラフを除く)

(グラフ) : データのグラフ表示・印字が可能です。

4. データの保存 (メイン画面にデータを表示しているときセーブ可能です。)

メニューバーより [ALT] キー+ [F] キー又はマウスクリックにてファイルを選択、サブメニューが表示されます。(セーブ/オープン) → セーブを選択

(1)測定データの保存



注: 保存データはエクセルにて読み出し可能です。

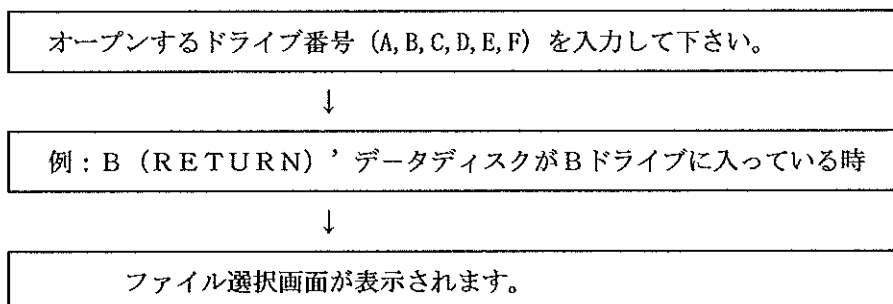
エクセル上で読み出すときはファイルオープンの画面より、列の区切りをカンマ区切りで指定して下さい。

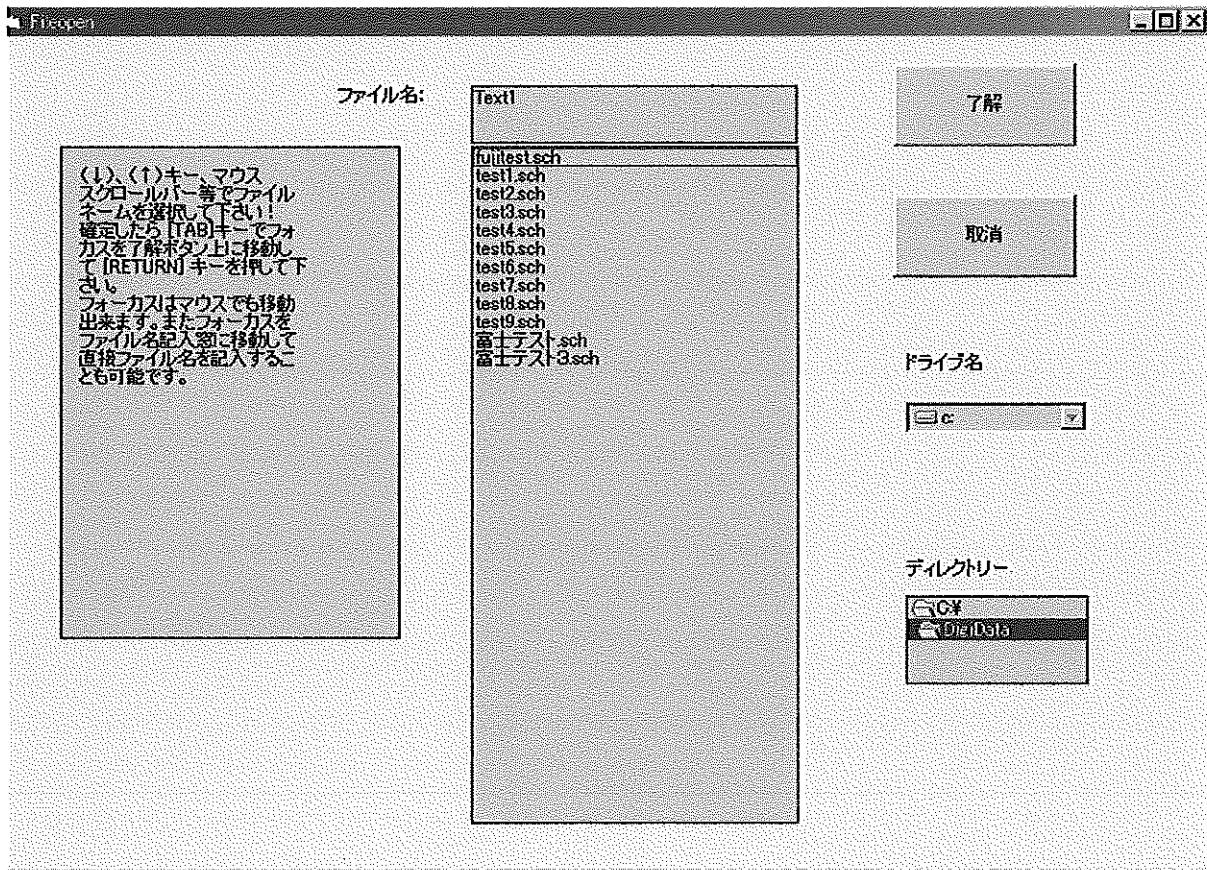
ディレクトリー@: ¥DIGIDATA¥表示現場名の中から *.CSVをオープンして下さい。

(@: はドライブ名 (A, B, C?) ¥DIGIDATA¥表示現場名はディレクトリー。*はテストデータの保存ファイル名)

5. データの読み出 (ファイルオープン *.SCHファイルのみ可能です。)

メニューバーより [ALT] キー+ [F] キー又はマウスクリックにてファイルを選択、サブメニューが表示されます。(セーブ/オープン) → オープンを選択





* [↓、↑] キー、又はマウスで読み出しファイルを選択して、ファイルボックスの中にファイル名が表示されます。[TAB] キーでフォーカスを了解ボタンに移動してRETURN→データ表示

6. データのプリント

データ表示画面にて [TAB] キーでフォーカスをデータ印字ボタンに移動してRETURNキーを押す、又はマウスにてデータ印字ボタンをクリックします。最終頁に印字見本を示します。

7. グラフの表示、プリント

データ表示画面にて [TAB] キーでフォーカスをデータ印字ボタンに移動してRETURNキーを押す。又はマウスにてグラフ表示ボタンをクリックします。

4 頁と同様のグラフ画面が表示されます。

目的によってメニューバーをクリックします。

- | | |
|--------|--|
| プリント | ―― 現在表示されている画面をプリントします。 |
| 連続プリント | ―― 複数のグラフのプリントを指定します、画面表示に従ってプリントする、最初のシリーズ番号と最後のシリーズ番号を入力します。 |
| 次測定 | ―― 次の測定データを表示します。 |
| 番号選択 | ―― 入力したシリーズ番号の測定データを表示します。 |
| グラフ終了 | ―― グラフ表示を終了してもとの画面にもどります。 |

注：シリーズ番号とはデジシュミットの測定番号では有りません。データの測定順に1より始まる連続番号です。

[ハードディスクへのインストール方法]

WINDOWSを起動し、DIGILINKシステムCDROMをCDドライブ（仮にD）にセットします。

WINDOWS画面左下の [スタート] をクリック→ファイル名を指定して実行をクリック→
D:SETUP.EXE (RETUN) 注:DはDIGILINKをセットしたドライブ名→
セットアップ画面がスタートします。画面表示に従ってセットアップを進行して下さい。

デジリンクプログラムのスタートはスタートメニュー→プログラム→DIGILINKをクリック

備考:ハードディスクでのDIGILINKのディレクトリー名は

¥ProgramFiles¥Digilink¥Digilink.exe

[USBシリアル変換ドライバインストールの方法]

以下の例はWin98, meの例ですが、Win, XPについてもほぼ同様な方法でインストール出来ます。

①パソコンの電源を入れ、OSの起動が完了した状態で

ProfoLinkシステムCDを

CDドライブに挿入します。

②本製品をパソコンのUSBポートに接続します。

③パソコンが接続を認識し、自動的にインストールが始まります。

④下の画面が出たら、「デバイスに適切なドライバを検索する」のラジオボタンをチェックし、次へ進みます。

⑤ドライバの場所の指定ではCD-ROMと

検索場所をチェックし、検索場所の指定には

f : ¥win (fはCD-ROMのドライブ名です。コンピュータによりドライブ名は異なります。)を指定します。

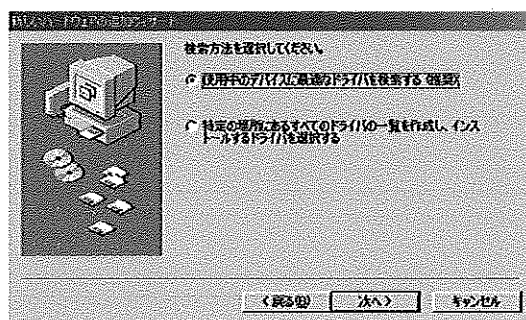
⑥ドライバがCD-ROMのf : ¥winが選択

されていることを確認し、次へ進みます。

注：OSがXPの場合ドライバーが適合が保証

出来ません（又はWindows XPのログテストには合格していません）と表示される場合がありますが、

中止せずにインストールを継続して下さい。



⑦ドライバのインストールが完了します。



⑧本製品がどのCOMポートになったかを確認するには、デバイスマネージャを見ます。

コントロールパネルにあるシステムのプロパティをダブルクリックで開きます。

Windows 98/Meの場合は「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

Windows 2000/XPの場合は「ハードウェア」タブをクリック後、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

「ポート」の下のツリーをみることでどのポートか確認できます。



⑨本ドライバをアンインストールする場合は、ドライバCD-ROM「Un-installer.exe」をダブルクリックして実行します。指示に従って進めればアンインストールが完了します。